



# ぐるり庄原 Look Around Shobara Camera Report カメラレポート

各地で行われたイベント&話題をお届けします。

## REPORT ③

### 勇壮で華麗な舞を披露 帝釈峡近郷神楽競演大会

東城の冬の風物詩である「第27回帝釈峡近郷神楽競演大会」が12月6日、東城町老人福祉センターで開催され、県内をはじめ岡山県や鳥取県などから神楽ファン約300人が来場しました。

大会には、国重要無形民俗文化財に指定される比婆荒神神楽(東城町)をはじめ、天神神楽団(安芸高田市)や石見神代神楽上府社中(島根県浜田市)、特別ゲストとして比婆荒神神楽こども塾(東城町)が出演。金銀で彩られた華やかな神楽衣装を身に付けた団員たちが、華麗で勇壮な舞を披露しました。

演目「八重垣の能」や「頼政」では、観客との駆け引きもあり、厳粛な中にも驚きや笑い声が起こり、大きな



▲勇壮な舞を披露する石見神代神楽上府社中

歓声と拍手が送られました。

大会の最後は、大黒様による福もちまきで盛り上がりしました。



### 地域をつなぐ狼煙リレー 戦国時代の情報伝達を再現

## REPORT ④

戦国時代の情報伝達手段とされる「狼煙上げ」を再現するイベントが11月23日に行われ、高・本村・庄原・峰田・敷信・山内自治振興区と国営備北丘陵公園の7カ所をリレーしました。自治振興区などによる庄原市狼煙プロジェクト実行委員会が主催。

各会場では、小学生の太鼓演奏、手作りの袴を着た点火セレモニーなどが行われ、他地域の狼煙を確認するたびに、大きな歓声が上がりました。また、来場者には豚汁や手打ちのそばが振る舞われました。

実行委員の実安裕美さん(山内自治振興区)は「来年度以降も継続し、このイベントを通して地域の連携を深めていきたい」と話していました。

▲白煙が勢よく高々と昇る(庄原会場)

## REPORT ⑤

### 炭焼き風景をジオラマに 八谷さん9カ月かけて制作

八谷勇男さん(掛田町)が「炭焼きの詩」と題したジオラマ(立体模型)を制作し、11月30日から市役所ロビーに展示しました。

この作品は、子どもの頃に体験した炭焼き作業を紹介したもので、炭焼き小屋の周りで薪を割ったり、炭俵を荷車に積んで街へ売りに行ったりする農村風景を再現しています。ジオラマは幅が1尺、奥行が2尺。紙粘土や山から拾ってきた木枝を使い、9カ月かけて完成させました。

これまで「少年の日の思い出」をテーマに、麦踏みや秋祭りなどの風景をジオラマにし、口和郷土資料館などへ寄贈されており、今回が6作品目。

八谷さんは「作品から懐かしさを感じていただき、元気になってもらいたい。また、展示していただける



▲少年の頃に体験した炭焼き作業を再現

場所があれば寄贈したい」と話しています。

作品の問い合わせは、八谷さん(☎0824-72-3390)まで。

### まちの玄関口をスイセンロードに 上湯川・和南原自治振興区が植栽

## REPORT ①

まちの玄関口をスイセンロードにしてイメージアップを図ろうと、高野町の和南原と上湯川自治振興区が、国道432号線の路肩にスイセンの球根を植えました。

島根県境の和南原地区では11月7日、区民や尾道松江線の工事関係者など約120人が参加。沿道1.5\*に10種類14,100個の球根を植え付けました。



▲旧和南原小学校付近に植栽



▲王居峠トンネル付近の直線に植栽

比和町境の上湯川地区では11月15日、区民約50人が2種類5,000個の球根を沿道1\*に植え付けました。参加者は「無事に芽が出て、高野を訪れる人々に花いっぱいを楽しんでほしい。今から春が待ち遠しい」と期待を膨らませていました。

この事業は、庄原市自治振興区活動促進補助金を活用しています。

## REPORT ②

### 新型インフル学び適切受診を 「庄原の小児医療を考えるひだまりの会」が始動

「庄原の小児医療を考えるひだまりの会」が12月4日、市保健センターで、「新型インフルエンザ」をテーマに第1回の学習会を開き、乳幼児の保護者30人が参加しました。

講師の庄原赤十字病院の石田聖美看護師は、病院での事例を交えて、新型インフルエンザの症状や検査、薬の服用の仕方などを説明。発症して12時間経過しないと正確な検査ができないことや、症状をメモ書きして情報を上手に伝えること、時間外は電話して受診した方が待ち時間が少なく子どもの負担が軽いことなど、上手な受診の仕方についてアドバイスしました。

参加した松尾佳代さんは「医療現場からの情報は分かりやすく良かった。いざという時も落ち着いて対応できると思う」と話していました。企画した代表の八谷りこさんは「予想を超える参加者に、関心の高さが分かった。アンケートを参考にして、今後も他の病気や予防接種などについて学習会を開きたい」と手応えを感じていました。



▲石田看護師に質問する参加者

「庄原の小児医療を考えるひだまりの会」は、小児科医師不足に危機感を募らせた母親たちが、適切な受診方法などを学び、医師が働きやすい環境をつくろうと結成。現在、会員を募集しています。会への参加は子育て支援施設「ひだまり広場」(☎0824-75-0222)まで。



# ぐるり庄原 Look Around Shobara Camera Report カメラレポート

各地で行われたイベント&話題をお届けします。

## REPORT ⑧

### きてみて ほっと停留所 総領里山倶楽部が開設

住民が気軽に交流できる場を提供しようと、地域福祉の実現を目指す総領里山倶楽部が、総領健康福祉センターで、「ほっと」できるコーヒーコーナーを10月から開設しました。

「きてみて ほっと停留所」と名付け、バスの待ち時間に立ち寄り人や、交流したい人が、コーヒーなどを飲みながらおしゃべりをして、楽しい時間を過ごすというもの。利用時間は、月・火・木・金曜日の9時30分から15時まで。募金を集め、ボランティアによる運営で、無料で利用できます。「みんなと話す元気ができる」と好評で、多い日は20人が利用されています。

庄原市が「しあわせづくり活動計画」を策定し、地域福祉を「身近な場所での市民のしあわせ」と定義。各地域で住民、社会福祉協議会、行政が一緒になって里

山倶楽部を作り、しあわせを感じることができる活動に取り組んでいます。



▲コーヒーを飲んで会話を楽しむ利用者。  
金曜日は「かわせみの家」によるパンの販売も行われています。

### "ほんもの"にふれる 奏でる 西城小学校音楽鑑賞会

## REPORT ⑨



▲生演奏を楽しむ児童

12月3日、西城小学校で、全校児童が参加して音楽鑑賞会が開催されました。

この音楽鑑賞会は、エリザベト音楽大学の学生5人の

グループ「アニマート」が、子どもたちに本物の音楽を届けたいと企画。フルート、オーボエ、ホルン、ファゴット、クラリネットの管楽器による五重奏で、ハイドンやビゼーのクラシック音楽、子どもたちになじみの深いディズニーやスタジオジブリのアニメ主題歌、「ふるさと」をはじめとする懐かしい日本の歌などが演奏され、参加した児童は、間近で聞く生演奏を楽しみました。

演奏の合間に、目隠しをして音を聞き、楽器の種類を当てる「楽器あてゲーム」をしたり、児童全員で英語の歌を合唱したり、児童参加型の鑑賞会に「こんなに近くで聞いたのは初めて」「楽器あてゲームは全部正解だった」と目を輝かせていました。

## REPORT ⑩

### 金子みすゞの心をうたにのせて スマイルコンサート



▲子ども大喜びでステージへ

「生かされている命・みんなちがってみんないい」をテーマに東城地域子育て支援センターが11月20日、市役所東城支所3階大会議室で、シンガーソングライターのもりいさむさんを招き、スマイルコンサートを開催しました。

もりさんは、童謡詩人金子みすゞの「星とたんぼぼ」の詩から「目には見えなくても大切なものがある」というみすゞの心をギターやオカリナの音色に添えてやさしく語り会場を魅了しました。最後に「子育て、人育ちは、地域力である。いろんな人が関わり、つながってこそ、やさしさ・思いやり・かけがえのない命を次の世代につなげることができる」と締めくくりました。

### フラダンス(口和)など表彰 「けんみん文化祭ひろしま」

## REPORT ⑥



日本舞踊の  
「花ノ本寿百弘社中さくら会」▶

◀ 地元の方言にこだわった  
創作劇の「敷信母さん劇団」



けんみん文化祭ひろしま'09「演劇・ミュージカルの祭典」が11月29日、庄原市民会館で開催されました。

庄原市の「敷信母さん劇団(代表 森元静美)」をはじめ県内各地からアマチュア劇団4団体が出演し、創作劇や時代劇、ミュージカルを披露しました。会場に訪れた約450人の来場者は、涙と笑いのひと時を過ごしました。

また、県内各地で開催されたそれぞれの分野で、市内

から出場した団体が優秀な成績を収めました。

安芸高田市で開催された「芸能の祭典」でフラダンスを披露した「くちわエンジェルス(代表 城田アンジー)」は、最優秀団体にあたる「奨励団体」を受賞。メンバーは「映画「フラガール」さながらの熱心な練習と多くの公演を重ねてきた成果が本番で発揮できた。これからもダンスの魅力を広げていきたい」と受賞を喜びました。

福山市で開催された「邦楽・日本舞踊の祭典」では、長唄「竹にうたう・梅の薫り」を披露した「花ノ本寿百弘社中さくら会」が優秀賞を受賞しました。この会を主宰する川崎弘子さんは「これを励みに、年齢や性別を問わず、多くの方に日本舞踊を楽しんでほしい」と話していました。

尾道市で開催された「ミュージックフェスティバル(合唱・洋楽)」では、「買い物」などの合唱を披露した「東城コールエコー」が優秀賞を受賞しました。代表の近藤久子さんは「会場と一体となった楽しい合唱を披露できた。この賞を今後の活動の励みにしたい」と笑顔で話しました。



▲フラダンスの「くちわエンジェルス」

## REPORT ⑦

### 伝統行事で交流楽しむ "ひざぬり"と"しめ縄作り"



▲ひざの上でぼた餅を塗るしぐさをする「ひざぬり」



完成した「しめ縄」▶

越原みこと会が11月29日、比和町のふれあいの里越原で、「ひざぬり」と「しめ縄作り」体験交流会を開きました。市内外から約20人が参加。越原地区の伝統行事「ひざぬり」では、「師走川に落ちませんように 師走もうけができますように」と唱え、ぼた餅を両方のひざとひじに塗るしぐさをして、無病息災を祈りました。

参加者は「ひざぬりの行事は県内でも珍しい。良い年が迎えられそう」と話し、自分で作ったしめ縄をお土産に持ち帰りました。